

COMPANY PROFILE /

株式会社ホテル・アローレ

片山津温泉にて、周辺に大型ゴルフ場があり、白山連峰や紫山瀧が一望できる景勝もあり、ヨーロピアン調のリゾートホテルとして充実。従前は関西からの観光客が中心だったが、北陸新幹線開通で関東からの観光客が増加。平日は、近隣の大手企業などビジネス利用客も多く、稼働率も高い。

研究員に期待されるミッション

アローレを拠点とした 観光による地域活性化

自社及び地域全体への国内外からの誘客促進・交流人口拡大に向けて、観光素材の掘り起こし・磨き上げを行い、認知喚起・関心醸成につながる取り組みを図っていく。

プログラムへの評価

受入企業

共創型観光産業展開プログラムでは、大都市圏の有能な人材と石川県にある地方企業とを具体的な課題解決を通してインターンシップ的に結びつける点が、最大の特徴かと思えます。しかし、能力のある人材と出会い、さらに当ホテルに来る気持ちになっていただけるのか、当初は半信半疑でした。お見合いみたいなもので、こちらが「OK」と返事しても、人材側から「ノーサンキュー」と言われる可能性もありますからね。

結果として志田さんに来ていただくことができ、実に張り切って課題解決に取り組んでくれており、大変嬉しく思っています。身分や待遇に関する交渉が必要となりますが、研究期間終了後も引き続き当社にかかわっていただける点も共創型観光産業展開プログラムを評価するポイントです。

首都圏にあるような大企業では、人材はたくさんある歯車のひとつという印象を時折受けます。一方で、地方の中小企業ではその良さとして、歯車ではなく、組織の「心臓」「核」として活躍できることが挙げられると思います。

とはいえ、縁もゆかりもない地方の知らない土地への転職を決意することは、首都圏で働く多くの人にとって、容易ではないでしょう。

共創型観光産業展開プログラムは、そういった不安を取り除く半年のお試し期間があり、かつ、客員研究員として金沢大学でリカレント教育を受けられるため、大変有意義で貴重な機会であると考えます。

リサーチ・フェロー

受入企業

株式会社 ホテル・アローレ

代表取締役社長 太田 長夫 さん

HOTEL ARROWLE

リサーチ・フェロー (客員研究員)

志田 朝美 さん

Asami Shida

PROFILE

ディズニーワールド（フロリダ）や旅行会社（メキシコシティ）にて勤務後、在日メキシコ大使館内メキシコ政府観光局にて、日本およびアジア・オセアニア地区におけるメキシコのPR業務に携わる。また、雑誌や書籍での原稿執筆、スペイン語の通訳・翻訳、日本の伝統工芸「こけし」とメキシコの手工芸を繋ぐ文化交流事業「メキシこけし」や、直近では蜷川実花監督映画「ダイナー」のスペイン語監修も務めている。

宿泊以外にも多彩な機能を集めた 1997年開業の欧風リゾートホテル

アローレは、1997年にオープンした石川県で唯一の本格的欧風リゾートホテルです。2008年には「オーベルジュ」をコンセプトに、メインロビーやバンケットルームなどを一新するリニューアルを実施しました。総客室数は130室。天然温泉の大浴場・露天風呂のほか、屋外ジャグジー、屋内プールも備え、スパ施設も充実しています。

イタリア料理、日本料理のレストランやバー、ティーラウンジなどの料飲施設もそろうっており、ブライダル、バンケットの会場としても地域の皆様から多くのご利用をいただいています。北陸では唯一の名門カントリー倶楽部が車で3分ほどの距離にあることから、ゴルフ客、ビジネス客の利用も少なくありません。

ざっくりとですが、宿泊客の3分の1が県内、3分の2が県外からです。一方、レストランは6割が地元、4割が県外です。婚礼に関しては100%地元のお客様ですね。

組織横断的に業務に取り組めるよう 社長付の経営企画室の所属に

当ホテルは柴山潟の北東湖畔に位置しています。白山連峰と柴山潟を一望できる景観も自慢です。柴山潟を挟んだちょうど対岸側に片山津温泉があり、加賀市などを訪れる観光客が当ホテルに宿泊するケースも少なくありません。

共創型観光産業展開プログラムへの参画は、地元信用金庫からの紹介がきっかけでした。仕組みの説明を受けた際に「いい取り組みだな」とすぐ理解でき、参画を決めました。

出会いと縁はとても重要です。研究員との巡り合わせが上手くいかない可能性を頭の隅に置きつつ、複数の研究員候補者と会ってみることにしました。

紹介を受けた志田朝美さんと面談すると、活躍が太いに期待でき、人物的にも好感が持てました。こちらからお断りする理由はなかったため、当ホテルでの研究活動をお願いしました。

新しいセクションとして社長付の経営企画室を設け、現在はそこで広報業務を担当してもらっています。社長付であれば、社内横断的に仕事ができ、どのスタッフとも人間関係が築きやすいですからね。

持てるノウハウを活用して、 観光資源の魅力を見つけ、発信

オーダーしたミッションは、「グルメや歴史など地域の諸々の魅力を掘り下げ、すくい取り、広く情報発信してほしい」ということです。発信すべき観光資源はどこでもない、足元の加賀市および片山津にあります。地域全体の魅力発信がアローレの魅力発信につながると私は考えています。



志田さんは英語とスペイン語が堪能な上、メキシコ政府観光局での勤務経験があり、メキシコは外国人観光客数が世界で7番目に多い国と聞いておりますので、是非これまで培った知見を存分に発揮してもらえればと太いに期待しています。実際に、私から出しているミッションの意味を真正面から受け止め、時にはフットワークも効かせて、国内外へ発信する地域の魅力の掘り起こしに一生懸命に取り組んでくれています。

社員にとって刺激となる存在。 期間終了後も業務の継続を

石川県特有の県民性もあるのでしょうか。当社の場合、地元採用がほとんどということも手伝って、スタッフの情報や人脈の広さに限りがあります。従って、新しいことにチャレンジする企画推進力に弱いところがあります。積極的に声を発し、行動に移す志田さんに少なくない社員が刺激を受けているようです。彼女が触媒になって、化学反応が少しずつ生じているように感じます。県外出身の異業種経験者を入れる共創型観光産業展開プログラムの効果を実証してくれていますね。

実は、私は生粋のホテルマンではなく、他の業界から来た人間です。外部人材が組織を変える可能性があることを実体験として分かっています。

今回のプログラムをきっかけにせっかくできたご縁を今後に生かす上でも、研究員としての期間終了後も志田さんには当ホテルに残っていただければ幸いです。

メキシコへの送客PR経験活かし 石川県片山津温泉への誘客を図る

前職では在日メキシコ大使館内にあるメキシコ政府観光局の職員として、日本マーケットにおける国の広報やマーケティング活動に携わっていました。その経験を活かし、将来的には観光による日本の地方活性化につながる仕事に就ければと常々考えていたところ、「石川県の観光による地方創生」をうたった共創型観光産業展開プログラムにインターネットで思いがけず出合ったことが、応募のきっかけです。

また、個人的な取り組みとして、温泉地で発祥した伝統工芸にまつわる文化交流事業を約10年にわたって企画・実施しているほか、「新・湯治」と呼ばれる環境省主催の地方の温泉地活性化プロジェクトにも以前よりチーム員として参加しており、日頃から温泉地の文化や可能性に関心を持っています。そのため、ホテル・アローレが位置する加賀市には加賀温泉郷を構成する片山津温泉、山中温泉、山代温泉の3温泉があるという点も参加の決め手であったと言えます。

そのほか、フリーランスの立場で、雑誌への寄稿や撮影コーディネートなどを10年以上手掛けてきた経験もあることから、例えば、メディアを活用した地域PRの仕組みを実際に形にできるころは、自分の強みのひとつだと考えています。

地域の認知度アップに向け ホテル主体での取り組み促進

東京から石川県に引越す前に、これまで石川県を訪れたことがなかったため、まず下調べとして複数の旅行ガイドブックを開きました。すると、自分が担当するアローレや片山津温泉の露出が少なく、県内だけでもたくさんの温泉地が点在することから、最初は大変かもと感じ



たのが正直なところですよ。

ところが引越した後、地域の方々にオススメの場所や知り合っておくべきキーパーソンなどのヒアリングを重ね、自分の足で実際に赴いてみることで、ガイドブックには載っていない多様な魅力を目にすることができました。同時に、これらをきちんと発信できれば十分、誘客の「伸びしろ」はあると確信しました。

誘客促進において、地域の認知度向上は非常に重要です。そこで、これまでの経験やネットワークを活かして、メディアのライターやエディターといった「情報発信源」となりうる人々をターゲットに据え、アローレ主催での地域PRを目的としたプレスツアーの企画・施行に現在は取り組んでいます。併せて、そういった魅力(観光コンテンツ)の情報を自治体や観光協会の枠を越えてカテゴリ別に整理・蓄積することも研究活動の一環として進めているところですよ。

地方の温泉地衰退はかつての温泉旅館による囲い込み戦略がルーツとも言われていますが、今回取り組んでいる「いち宿泊施設主体の地域PR」は、そのような過去へのアンチテーゼにもなりうると考えており、今後このような取り組みが他地域でも増えていけば良いと思います。

北陸新幹線の敦賀延伸や 大阪万博の開催も見据えて

住まいはホテルから徒歩12~13分のところにあるアローレの社宅をお借りしているのですが、通勤は日本三名山のひとつである白山を眺めながらプロッコー畑に挟まれた一本道を徒歩通いというスタイルです。都会のそれとは全く異なり、心身ともに健康的な日々を送っていると感じています。

また、車の運転免許を私は持っていないので、地域内の移動手段は、もっぱら電動自転車です。加賀市は国産自転車第1号が生まれた地とも言われているので、そういった地域のストーリーを楽しみながら、生活しています。



よく「車がないと生きていけないよ」と地域の方に言われるのですが、すべての観光客が車で来るわけではありません。車を運転できないことを逆手に取った観光客の目線で、二次交通といった地域が抱える様々な課題への気づきと解消に繋げていけたらと思っています。

2023年春に北陸新幹線が敦賀まで延伸し、金沢止まりだった新幹線が片山津温泉を含む加賀温泉郷にもやって来ます。さらに、2025年には大阪万博が開催されます。地域の活性化につながる交流人口の拡大とそれに伴う経済波及効果は当然、アローレや片山津温泉にも期待できます。

可能なら、観光客を呼び込むための多様な仕掛けの準備を今後に向けて行い、自分の能力を最大限に発揮できたら嬉しいですね。